

第16分会 平和教育

身近な平和について考え、クラスにおける平和を創造しようとする生徒の育成

1 主題設定の理由

情報化やグローバル化が進む今日、地球規模でとりくむべき問題は山積みとなっている。地球温暖化、世界的な経済格差など、人々の生活を脅かす国際的な課題は依然として解決の兆しが見えない。日本においても、沖縄米軍基地問題、オスプレイに関する動き、中国や韓国との関係に関する情報は毎日のように報道され、国民に大きな不安を与えている。さらに、児童・生徒の属するクラスなどの小さな社会においては、依然として構造的暴力は改善されないまま私たちの生活の中に存在し続け、それによって苦痛を感じる人も少なくない。このような情勢の中、これからの日本、世界を担う子どもたちに平和の種をまき、身近な平和を創造しようとする態度を育成することは、学校教育に課された重大な責務であると感じている。

2011年3月11日に東日本大震災が発生し、地震や津波による被害は1年以上たった今でも人々を苦しめている。様々なボランティアが支援活動を現在も継続的に行っている状況だからこそ、自分たちにできることを再確認し、実行していくことの大切さは身にしみて実感できるであろう。

戦後67年を迎え、戦争を体験した人々が少なくなってきた今、一人ひとりの平和に対する意識をさらに高め、国際社会に貢献する態度を育成するためには、身近な生活の中で平和を求める子どもたちを育てていく必要があると考え、本主題を設定した。

2 研究仮説

本を用いた調べ学習やその当時の様子を知る人々から話を聞く活動をとおして、戦時中のくらしや戦争の悲惨さを知り、お互いに話し合う場を設定すれば、身近な平和について考え、クラスにおける平和を創造しようとする生徒が育つであろう。

3 研究内容

本や当時の様子を知る方からの話から、戦争や平和に対するイメージを学級で共有し、学級の目標を考えることで、平和を創造しようとする生徒を育てる。

4 結論

今回の取り組みを通して、平和を求め、生徒にとって最も身近な社会である学級における平和を創造しようとする態度を育成することができた。